



アジア民族舞踊交流会（藤沢市労働会館）公演後・ホールにて

ごあいさつ

財団法人 黛民族舞踊文化財団

理事長 加戸 守行

昨年は、好評を博した国立劇場における世界舞踊祭2011での黛民族舞踊団の公演の10日後に、未曾有の東日本大震災が発生し、当初は被災者の気持ちを慮って文化活動においてもいささかの遠慮・手控えが見られたものの、逆に被災地復興には精神面での盛り上げも必要ではないかとの考えが主流となり、制約要因が取り払われてきたことは、何よりのことです。

本年も1月15日の赤坂区民センターにおける世界舞踊祭で、日本各地の伝統的踊りを素材にした節子先生振り付けの演目を核として、黛民族舞踊団の情緒溢れる素晴らしい公演を披露できたことを誇らしく思いますとともに、7月には例年のようにアジア民族舞踊交流会で日・中・韓の3団体による公演を展開できますことを嬉しく存じます。

来日される中国雲南省昆明市演劇院及び韓国康美利ハル舞踊団には心から感謝申し上げたい。

初代黛理事長の衣鉢を受け継ぎ、民族の自然環境・生活様式・農耕狩猟方式・信仰・食事等に根差した独特の舞踊を継承発展させる方向に向かって、関係する皆様の更なる御理解・御支援を願ひ上げます。

アジア民族舞踊交流会

2011年7月2日～7月13日



近藤文化庁長官表敬訪問

【中国鳳仙功舞踊研究所・鳳仙功舞踊団メンバー】

創始者	大鳳 真陽			
団 長	閻 仲 珩			
団 員	鈴木 恵子	鈴木 彩乃	矢野あかり	伊勢亀つむぎ
	菊池みどり	早川 光江	鈴木 滋子	四方美紗江
	天野 俊子	中島 幸	松田 育	塩野 了

【韓国金梅子・創舞会（チャン ムフェ）メンバー】

創舞芸術院				
理事長	金 梅 子			
芸術監督	崔 智 珩			
団 員	金 智 英	尹 秀 美	金 美 善	白 周 喜
	金 庚 慧	房 貞 男	尹 志 睿	宋 宰 煜
	金 愍 規			

【黛民族舞踊団メンバー】

団 長	黛 琉美			
賛助出演	藤間 章吾			
団 員	黛 智英	黛 莉香	黛 真也	黛 李穂
	平出 圭	伊藤みつ子	五月女華舟	田母神裕子
	宇野あかり	小島千佳子		

【スタッフ】

照 明	井上 正美・小熊 悦子
音 響	中村 蓉子
舞台監督	八木 清市・松村 若奈・大成 俊介

アジア民族舞踊交流会の公演日程

2011年

- 7月2日(土) 羽田空港着 都市センターホテルにて歓迎レセプション後、舞台打合せ
- 7月3日(日) 神奈川県藤沢市労働会館にて日中韓アジア舞踊交流会
- 7月4日(月) 品川区立総合文化会館「きゅりあん」にて日中韓アジア舞踊交流会
- 7月5日(火) 東京発9:00踊り子105号にて下田着、下田玉泉寺、下田港見学、稲取温泉にて一泊
- 7月6日(水) 伊豆稲取発9:22踊り子102号にて東京着12:00、夜はディズニーランドにて世界の舞踊を取材
- 7月7日(木) 学習院創立百周年記念会館にて日中韓アジア舞踊交流会
- 7月8日(金) 太田市立藪塚本町南小学校にて児童と舞踊交流
- 7月9日(土) 太田市新田文化会館エアリスホールにて日中韓アジア舞踊交流会
- 7月10日(日) 古都・鎌倉、江ノ島探訪
- 7月11日(月) 文化庁長官表敬訪問、韓国大使館表敬訪問、中国大使館表敬訪問
- 7月12日(火) 午前中買い物、18:00さよならパーティー(赤坂飯店)
- 7月13日(水) 羽田空港より帰国

出演 中国鳳仙功舞踊研究所・鳳仙功舞踊団、韓国金梅子・創舞会(チャン ムフェ)、黛民族舞踊団
主催 財団法人 黛民族舞踊文化財団
共催 財団法人 太田市文化スポーツ振興財団
学習院生涯学習センター
湘南日中友好協会
湘南日韓親善協会
在日本大韓民国民団湘南中部支部
後援 文化庁
中華人民共和国駐日本国大使館
駐日韓国文化院韓国大使館
日本中国文化交流協会

アジア民族舞踊交流会記録

2011年度は7月に訪日団を迎えることとなりビザ発給時に問題などが生じないように早めに中国に連絡をとる。

2011年5月に雲南省大理市白族自治州の舞踊家が14人来日する事が決まって、日本側では訪日の予定日までには手続きを完了するに至った。ところが、公演10日前に中国より今年は外国に行くことが不可能になったと連絡が入り大騒ぎとなる。覚悟を決めて東京で師の黛節子と以前舞台をつとめた事のある閻先生に相談して出演して頂く事になった。

7月2日(土)

日本のスタッフが待つ都市センターホテルに、韓国創舞会(チャン ムフェ)の皆様が到着、宴会場「アイリス」で歓迎会を開く。日本側スタッフと翌日からの細かい打ち合わせをする。

舞踊団は各自の舞台用品を整理し、明日からの荷物と分け、各自ホテルの自室に入る。



南部倭積唄(日本)

7月3日（日）

東京より藤沢へ。午前中聶耳記念碑を参拝。

12時より藤沢市労働会館にてリハーサル。

14時アジア民族舞踊交流会開始。市長も観て下さって好評のうち終了、全員で夕食をとり東京に戻る。

7月4日（月）

品川区立総合文化会館「きゅりあん」にて14時よりリハーサル、18時30分よりアジア民族舞踊交流会開催。

7月5日（火）

東京駅9時発の踊り子10号に乗って伊豆下田へ取材旅行に出発。途中伊東を過ぎると、太平洋の一部が姿を現す。楽しみにしていた富士山は雲の中で見えず、残念だった。11時43分下田到着。昼食は天ぷらを頂き、14時発の黒船に乗って伊豆の海を回遊。カモメがたくさん飛んで来て、中国・韓国の人はエサをやりながら大喜びで、写真を撮るなど楽しい船旅を終えた。その後唐人お吉で有名な玉泉寺、了泉寺、宝福寺をまわって水族館でイルカショーを見学。下田駅に戻り、伊豆急で稲取駅に向かう。支配人の出迎えをうけて稲取温泉に到着。



龍と鳳の舞（中国）



教房クッコリ（韓国）



アジア民族交流会の司会。中国・韓国の団長の紹介

海の幸の船盛りなど豪華な食事と日本酒ですっかり興にのって、中韓の舞踊団の団員が交互に唄ったり踊ったり、楽しい時間を過ごした。閉会の後は温泉に入ったり夜の海を眺めたりして各々楽しんだ。

7月6日（水）

早朝、ホテル前海岸の水際まで行き、寄せては引く伊豆の海を眺めていた。8時に朝食を済ませ、伊豆稲取9時22分発の踊り子102号に乗車、東京着12時。

午後は自由行動で買い物、夜はディズニーランドで世界の民族舞踊を見学。楽しい一日。

7月7日（木）

9時、交流会準備。学習院創立百周年記念会館に到着後13時から14時5分までアジア民族舞踊交流会研究会のシンポジウムを開催。諏訪春雄学習院大学名誉教授の司会で、日本、中国、韓国の舞踊団の団長がパネラーとして参加し、各代表国の歴史の紹介から始まり、パネルディスカッションに入る。

内容は日中韓の団員による実技を交えながら、基礎訓練についてと、伝統の保存と現代化について討論された。

シンポジウム終了後、14時15分より日中韓舞踊交流会がスタート。お客様が多くお見えになり一安心であった。夕方は中韓の舞踊団はショッピング。夕飯は赤坂飯店で。

7月8日（金）

全員9時40分浅草発東武伊勢崎線の特急で群馬県太田市へ向かう。太田グランドホテルに荷物を置き、エアリスホール差し回しのバスで太田市立藪塚本町南小学校に向かいアウトリーチを行う。三年生全員参加。中国の少数民族扇の踊り、韓国はうちわ踊り。先生も生徒も短時間で全て踊れる様になり、10月の運動会で踊って見せるとの事。

その後、新田義貞に纏わる東毛歴史資料館を訪問。館長の案内で原始・古代・中世・近世・現代と移りゆく日本歴史の一端の説明を受ける。

太田グランドホテルで18時より、太田市の関係者が出席し、交流の話。太田市の事など色々語られて、夕食会は楽しく終了し、各自スーパーへ買い物に出る。

7月9日（土）

朝、当日出発のグループがエアリスホールに着き次第、リハーサル開始。14時アジア民族舞踊交流会開始。太田市長の挨拶で開催。大勢のお客様で楽しい舞台でした。太田発浅草行きの東武特急で帰京、焼き肉の夕食を済ませホテルに戻る。



中国舞踊を教える 薮塚本町南小学校にて



韓国舞踊を教える 薮塚本町南小学校にて



鎌倉大仏の前で

7月10日（日）

ホテルを8時に出発。山根先生が手配して下さった貸切バスで一路鎌倉へ向かった。バスの中で日本食の美味しいお弁当を頂き、休憩して鎌倉大仏・鶴岡八幡宮へ。以前宮司様にお目にかかった時の思い出話などをした。建長寺を見学し、大仏の写真を撮ったり、お土産を買ったり、江ノ島に渡りハワイダンスのショーを観たりして楽しい一日を過ごし、帰りはバスでホテルまで送ってもらった。

7月11日（月）

中国、韓国の団長他一名で11時、近藤文化庁長官を表敬訪問。

午後、韓国は韓国大使館へ表敬訪問して、お国の話をして楽しく過ごした。

夜は自由行動で浅草、秋葉原などへ買い物に出かける。

7月12日（火）

午前中は買い物へ。赤坂のアーバンで資生堂化粧品を山ほど買い求め、各方面で買い物を楽しんだ。

18時より赤坂飯店でさよならパーティー。

加戸理事長の代理、鹿海評議員が挨拶し、各国代表もそれぞれ挨拶をして乾杯。それぞれの思い出話に花を咲かせ、お土産交換。黛からは皆様へ資生堂化粧品セット、中国からは綺麗な小物バック、韓国からは扇と民芸品、皆お国自慢の物が配布され大喜び。

皆、黛アートサロンで最後のお別れに唄ったり踊ったり日本のきものをきたりしてホテルへ帰った。

7月13日（水）

羽田空港より帰国。

こうして第13次日中韓のアジア民族舞踊交流会を無事に終える。

交流会プログラム

【解 説】

第一部

1. 南部倭積唄 (日本・山口県・青森県)
正月に門付芸人がその家の繁栄を唄にしてまわったのが、この唄のはじまりである。その年の幸福や家内安全五穀豊穡等を祝って各家々を廻ると、唄の通りその年がよい年になるという信仰による習わしがあった。
2. 輝煌～姑娘の夢 (中国)
今日は楽しいお祭りです。娘達は華やかな衣裳を身にまとい、真っ赤なハンカチをクルクルまわして元気一杯に踊ります。
3. 天の目 (韓国)
東北アジアのお祭りの原形をパターンに置いて、これまで韓国舞踊家・金梅子が追求してきた舞の世界である。チュンムボム(舞の本質)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの集大成として舞の原形を見出し続ける創作活動の中から生まれた演目です。
4. 白鳥 (中国)
世界の人々からその優雅な美しさを愛されている白鳥。どんな時も夢や希望・愛を求めて精一杯生きるその姿を表現しています。
5. 弓舞 (中国)
清の時代、蜂起軍「小刀会」の首領である「潘啓祥」とその恋人「周秀英」が敵の砲火の中で弓の腕を磨く情景を表します。
6. チジョンサルプリ (韓国)
この世の中の苦行すべて受け入れ、これらの全てを身代わりに厄を払って、人の縁を大切に思い倫回する事を願う踊りです。
7. 龍と鳳の舞 (中国)
強い男性の象徴「龍」と美しい女性の象徴「鳳」。清の時代、宮廷で皇帝閣下ただ一人の御前で舞う龍と鳳の舞。
8. 麦屋節 (日本・富山県)
富山県五箇の庄に伝わる平家落人によって唄いはじめたといわれる労作唄。麦踏の足などの振りが入り格調高い男性舞踊です。
9. 古代神 (日本・富山県五箇山)
笠踊りを特徴とする。黛節子は、オリジナルの衣裳とリズムカルな振り付けで、軽快でユーモラスな踊りに仕上げている。
10. 楽土 (中国)
私は生きている。涙をこぼし、大声で笑い、不安に揺れながら力一杯に生きている。心のままに生きている。

第二部

1. 鳩間節 (日本・沖縄)
鳩間島の村祭りである「結願祭」で五穀豊穡を祈って踊られる。
2. 千鳥節 (日本・沖縄)
島から働きに出た娘達が浜辺で鳴く千鳥に思いをはせて故郷を恋うる姿を踊ります。
3. 教房クッコリ (韓国)
教房とは、妓女(芸妓)に楽器、歌、舞を教えた機関を言う。その昔、ムーダン禁止令により行き場所を失ったムーダンが教房に入出入りするようになりはじまった舞ということで教房クッコリと呼ばれるようになった。この踊りの中では韓国のリズムであるクッコリ、チャジンモリ、タリョンと流れ、ヨンブルリズムではタリョンよりチャジンモリリズムが多く入り、落ち着きがありながらねばりがあり、繊細でありながら哀切の舞である。
4. 朱雀 (中国)
中国古来の陰陽道では、「東西南北」4つの方向にそれぞれを守る神がいるとされています。南を守るのが朱雀。
5. 律(ビブラート) (韓国)
体で解き放つ厄払いの儀式を現代の舞で表現した舞である。
人のつながりとは、絡まっている糸のようだ。私の糸は…貴方の糸は…どこに絡まっているのか…。
さあ、これからはその糸をたどっていく時間、希望、その何であれ行きかう振動と交感でからまる糸をといてみる。
6. 嬉神 (中国)
森の奥深くには美しい神様が住んでいて、その姿を見た人には幸せが訪れるのだそうです。心の醜い人が森の中をいくら探しても姿を現しません。心の優しい人だけに微笑みをたたえたその姿を見せ、幸せを分けてくれるのです。
- 7・8. 漁夫・黒島口説 (日本・沖縄県)
沖縄県、八重山群島の黒島に伝わる口説歌。島の自然の豊かさ、豊作の有様、島最大の行事である綱引き祭りや、干蛸を盗んだ鼠、それを追いかける猫など、平和な島の年中行事などを振りとともに囃したててコミカルに踊ります。

——交流会の舞台より——



麦屋節（日本）



鳩間節（日本・沖縄）



白鳥（中国）



散調（韓国）



アジア民族交流会研究会のシンポジウム
司会の諏訪教授



シンポジウムの中国・韓国・日本のメンバー



朱雀（中国）



鳩間節（日本）



天の目（韓国）



古代神（日本）



輝煌 (中国)



千鳥節 (日本)



弓舞 (中国)



越中おわら (日本)



漁夫・黒島口説 (日本)



漁夫・黒島口説 (日本)



漁夫・黒島口説（日本）



紙銭 チジョンサルブリ（韓国）



律 ビブラート（韓国）



嬉神（中国）



楽土（中国）



エチオピアの会にてはねこ踊りを指導する（日本）

世界舞踊祭に参加

2012年1月15日（日）

茨城大学教授国枝たか子先生主宰の「世界舞踊祭」が、今年も港区赤坂区民センターで開催された。今年
は10回目を数え、今年が最終回ということで、当初の
目標である世界100カ国の参加を目指して多くの国々の
舞踊が披露された。

世界各国の宮廷舞踊が復活上演され、ヨーロッパ、
アメリカ、アジア諸国の民族舞踊がリアルタイムで紹介
されていた。これらの色彩溢れる外国ダンスを迎えたの
は、日本古典舞踊、民族舞踊である。地唄、三
弦、箏曲、新内などの優れた古典音楽もあり、暗黒舞
踊などの前衛的な試みもされていた。



赤坂区民センターの楽屋にて

日本民族舞踊 黛民族舞踊団今年のプログラム

代 表	黛 琉美	団 員	黛 智英	黛 莉香	黛 真也
賛助出演	藤間章吾		黛 李穂	伊藤みつ子	五月女華舟
			小島千佳子	花柳翁麗	
(1) さんさ時雨	(宮城県)	(5) 大和楽「城ヶ島の雨」	(神奈川県)		
(2) 越中おわら節	(富山県)	(6) 祝い舞	(宮城県)		
(3) 麦屋節	(富山県)	「花田植」			
(4) 伊予万歳	(愛媛県)	「豊年舞」			

『エチオピア料理とダンスの夕べ』

日本エチオピア協会理事兼モカ・エチオピア・ダンスグループ実行委員 山本 純子氏にご招待を受け
『エチオピア料理とダンスの夕べ』に出演した。

毎年恒例のこの会は、今年は当協会の40周年のお祝いも兼ね、11月6日（日）IAC地球ひろば講堂にて賑やかに開催された。

アフリカ各国大使をはじめ、夏の世界陸上・韓国テグ大会で見事金メダルを獲得した、エチオピアナショナルチームのイブラヒム・ジェイラン選手他450名の皆
さまにご参加頂き、盛会のうち終了した。

黛舞踊団は被災地である東北地方に伝わる伝統舞踊を披露した。

花笠踊り（山形県）、さんさ時雨（宮城県）、会津磐梯山（福島県）、俵積み唄（青森県）、はねこ踊り（福島県）、最後はエチオピアの国旗を持ち舞踊団が指導しながら、全員楽しく踊り、終了しました。



エチオピア大使とともに



エチオピアの会にてはねこ踊りを指導する（日本）



エチオピアの会にて花笠踊り（日本）



エチオピア料理とダンスの夕べ



さんさ時雨（日本）



南部俵積み唄（日本）

*『お知らせ』

アジア民族舞踊交流会（2011年7月2日～12日）の各会場にて、東日本大震災救援募金を募り、集まった三万円を読売新聞社・読売愛と光の事業団に寄付いたしました。書簡にてお礼の言葉を頂きましたことを併せてご報告致します。

財団法人

黛民族舞踊文化財団のあらまし

財団法人黛民族舞踊文化財団は、我が国伝統の民族舞踊を舞台芸術として確立し、その普及向上を図るとともに国際文化交流を行うことを目的として、昭和61年3月文部大臣から設立を許可された法人です。

財団設立後は、（1）民族舞踊普及向上のための中央における公演をはじめ、地方巡業公演を活発に行ってひろく一般にこれを紹介し、また研究成果の発表会等を開催し、（2）後継者の育成を目的として民族舞踊の研究者（音楽、振付けを含む）、舞踊家のための研究会、研修会等を開催して創造活動を奨励すると共に技能の向上を図り、（3）日本各地および中国・韓国・東南アジア諸国の民族芸能を取材し、その研究を行うと同時に収集した資料を整理保存して一般にこれを提供し、将来は資料館を設立して一般の利用に供することを計画しています。また、（4）世界各国にはそれぞれ民族舞踊団が国家の庇護のもとに活動していますが、これら舞踊団との交流や、中国・韓国・東南アジア諸国の民俗芸能伝承者たちとの交流等、幅ひろい国際交流を推進して相互の連携と研鑽につとめ、（5）民族舞踊、民族芸能に関する資料および研究成果等の出版物を刊行して、民族舞踊に対する理解を深める目的達成のため、年次を追って事業を充実していきたいと考えております。

しかしながら、事業を発展充実させていくためには、何と申しましても経済的基盤を確立する必要があることを痛感いたしております。

当財団が、真にわが国を代表する民族舞踊の振興団体として育ってまいりますよう、財団の事業目的をご理解くださり、各界の方々の御支援を心からお願い申し上げる次第です。

つきましては、当財団には賛助会員規定を設けておりますので、皆様にはぜひ賛助会員として、会費により御支援を賜りたく、お願い申し上げます。

民族舞踊文化 No. 24 2012年4月27日発行 発行人 加戸 守行 編集 財団法人黛民族舞踊文化財団事務局
〒107-0052 東京都港区赤坂3-10-3 黛ビル4F TEL 03-3583-3633(代) 財団法人黛民族舞踊文化財団
FAX 03-3583-3639

THE MAYUZUMI FOUNDATION FOR TRADITIONAL FOLK DANCE

MAYUZUMI BLD 4F, 3-10-3, AKASAKA, MINATOKU, TOKYO